

## グループホーム森の家 3 階

## 地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	24	
理念に 基づく 運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	3	
		1	<b>地域密着型サービスとしての理念【外部評価】</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人の地域での暮らしを支えていたあらゆる資源の継続性を探りながら、その人らしい暮らしが継続出来るよう地域との関わりを大切に、「地域に根ざしたホーム」である事を理念としている。	1	その人らしく暮らす為の支援を、家族や地域の方の協力、協働で継続していく努力を重ね、その人の生きる力を引き出せるよう理念を共有し具体的な日常を構築していきたい。
		2	<b>理念の共有と日々の取り組み【外部評価】</b> 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を周知し、理念に基づき支援が実践されるよう意識した取り組みをしている。職員全員で定例会議を行い、日常を振り返り初心を持ち続けるよう意識を高めている。各委員会でも理念に基づき活動に取り組んでいる。	1	更に新人職員への理念浸透の為、日々の場面の中で教育し実践に反映させる力を持った職員を育成していくよう努力している。
		3	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議での現況報告、また地域の人や家族の行事参加などの交流の中で入居者の暮らしの様子をみて頂き、地域で安心して暮らせる取り組みの実践を理解して頂く機会を設けている。「森の家便り」を定期発行し、町内会、老人会、市民センターなどに配布し発信している。	1	家族はもとより地域の方へ理念に添った暮らしを知って頂き、理解と協力を推進していく努力を続けていく。
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価 3 項目・外部評価 1 項目	3	
		4	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議出席のお願い、行事参加の呼びかけ回覧、新聞の配布、町内会の方の園芸指導のお願い(菊作り)、スポーツレクリエーション用具の借用と指導協力(カローリング)、近隣小学児童との交流、近隣市場での買い物や配達、出張販売、循環バスを地域に開放し利用して頂くなど地域との親しい関係作りを推進している。	1	今まで培った関係を大切に継続して、今後も積極的に呼びかけていきたい。また、交流しやすい雰囲気作りに努め開かれたホームにしていきたい。
	5	<b>地域とのつきあい【外部評価・重点】</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が町内会員となり、清掃作業や花壇作りに参加したり、地域の方が、盆踊りや餅つき等季節行事や節日の行事を、入居者と一緒に楽しんでいる。近隣の散歩中挨拶を交わし、季節の花を摘んで下さる方もあり馴染みになっている。今年度も町内からの敬老会の誘いを受け、参加を楽しみにしている。	1	活動の継続と、日頃からの挨拶など小さな事柄の積み重ねを大切に交流を深めていきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	2 支地域 合との	6	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が、入居者を支援する中で得た知識を活かし相談に応じていることを、地域の方に運営推進会議などを通じて発信している。又、知識習得の為の研修に積極的に参加し研鑽に努めている（グループホーム協議会・医師会・市町村の行う研修など）。実習生を受け入れ、将来の福祉に携わる学生さんに、職員が高齢者との関わりで学んだ支援のあり方を実習の中で学んでもらっている。	1	認知症サポーター養成講座の開講依頼に応じられるようキャラバンメイトの受講をした。今後に活かしていきたいと考えている。色々なつながりや小さな交流を続け地域で活かしていける事を喜びとしたい。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	5	
理念に基づく運営	3 理念を 実践する ための 制度の 理解と 活用	7 外部 評価 4	<b>評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では、日頃の自分たちのサービスを項目毎に客観的に振り返り、改善点を見出す機会になっている。更に外部評価によって気付かない点や良い点が明確になり、反省はもとより自信につながることもあり、今後のサービスの質を高めようとの意識の向上につながっている。外部評価による課題については、職員全員で改善点を話し合い取り組んでいる。	1	継続的に評価を行い改善点を明確にし、基本的なサービスの充実と、独自性も取り入れながら質の良いサービスに、より近づく努力をしていく。
		8 外部 評価 5	<b>運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者、民生委員、消防署員、保健師、家族等参加により2ヶ月に一回開催している。理念に添った活動の取り組みの実際や、家族会の報告等行い理解を頂いている。又その都度議題に沿って話し合いが持たれ当ホームに留まらず、地域で認知症高齢者を支えていくことの大切さを各々の立場から意見交換され、職員の意識改革となり、質の確保に繋がっている。	1	会議では率直な意見交換が出来るような雰囲気を作り、その中でのたくさんの意見や提案を受け止め地域に根ざした質の良いサービスを提供していきたい。
		9 外部 評価 6	<b>市町村との連携【外部評価・重点】</b> 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	東京研修センター及び市共催の認知症への正しい理解の啓発促進を目的に開催したイベント「もりフォーラム」への参加協力し、多数の家族参加にも繋がった。また、介護サービス相談員派遣事業を受入れ外部者による客観的な意見を頂く場を設けている。その他グループホーム協議会各ブロック長と区市町村の介護保険担当者との地域密着型サービス情報交流会に参加し意見交換を行った。	1	今年度の「もりフォーラム」は9月27日に山田緑地で開催され、家族会議、本人会議への参加予定。自然の営みを体全体で感じ、入居者と家族、職員が秋の一日を共に過ごすことにしている。
		10 外部 評価 7	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】</b> 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	8月にビデオ研修及び併設施設の相談員（社会福祉士）による研修会を行い、多数の職員が出席した。欠席の職員へは資料配布と共に説明をし、レポート提出にて理解を深めた。現在具体的に活用されている入居者はいない。家族会の集まりの際説明の機会を設けている。	1	制度変更などに注意を払い知識習得に努め、必要時に説明し話し合いが出来るような体制をしっかりと作り活用していく。定期的な研修会を実施していく。
		11	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については当然あってはならないことである。重大な事はもちろん、見過ごされがちな言葉や態度による虐待等の予防と気付きをテーマに研修を行い理解・啓発に努めている。万が一発見した時の市町村や県などへの対応システム（通報など）についてもマニュアルにより周知を促している。	1	研修での学びを意識向上に繋げ、日常の何気ない場面にも常に自己を振り返り、他職員の意見にも耳を傾け間違いのない行動をとっていけるよう周知徹底していく。また、定期の研修も継続していく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	7	
理念に基づく運営	理念を実践するための体制	12	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にてその内容を明白にし、入居時に説明を十分行い、不安や疑問があれば質問に応じ、納得した上で同意書を頂いている。料金改定時にも改定内容を文書にて説明し同意書を頂いている(24時間医療連携加算)。	1	契約解除に関しては、十分な話し合いと期間を経て納得して頂く事が必要と考えている。開設から現時点まで対象者はいない。
		13	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の介護サービス相談員が2ヶ月に1回来居し、入居者と話したり寛いだりしながら、現在のサービスについて不満や要望が無いかを知る機会を設けている。言葉で思いを上手く発信することができない入居者に対しては表情、行動などから思いを引き出すよう努めている。	1	入居者の思いや不満・苦情などについては、伝達手段が困難な方が多いため、日頃の様子をよく観察し思いを受け止め、出来る限り本人の意向に沿ったサービスの提供に心がけている。
		14	<b>家族等への報告【外部評価・重点】</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に日頃の様子を報告している。健康面については訪問看護師との連携による健康管理の報告をしている。定期受診は家族の同行が多いが、必要に応じ職員も同行し、家族と共に情報提供し医師の指示を受けている。日頃の生活の写真をリビングや廊下に掲示し紹介している。金銭出納帳は月末で締め領収証と共に提示し説明の上印鑑をもらっている。家族が遠方の方へは電話や、写真・予定表・本人の手紙を添えた便りを出している。	1	面会の頻度が比較的多い為、顔を会わせ話をする機会が多い。家族、職員間の情報交換で意思疎通が上手く取れているように思う。今後も同様な関係作りをしていきたい。
		15	<b>運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に重要事項説明書の書面掲示や意見箱を設置し、家族会や日頃の面会時にも折々に口頭で伝え、遠慮の無い話し合いが出来るようコミュニケーションをとっている。意見や苦情があれば、速やかに職員の周知とし、必要に応じカンファレンスを行い改善策を見いだしている。介護相談の日程も知らせている。	1	今後も意見や要望、苦情に対し、姿勢を正し傾聴し、早急な対応と結果報告を確実にし運営に反映させていきたい。家族会の活動も活発になっている為、意見が出しやすい環境になっていると思われる。あらゆる機会を利用して、意見を伺うよう努めていく。
		16	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受け入れや入居継続の可否については、全体会議(検討会議)で職員の意見を聞き検討され決定するようになっている。また、月1回の職員会議あるいは申し送り時、各委員会会議などで話し合いや報告の場を設け現場での活発な意見交換が行われている。提案事項は、内容により、その応じた現場で生かされている。	1	職員一人一人の日常の中から生まれた意見や情報、新鮮な視点に立ったアイデアなどがサービスの質を高める事に繋がる例が多々ある。意見を出し合える環境を作り、出た意見を大切に運営に反映させていく。
		17	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的には日勤者3~4名(内正職員1名)が勤務している。夜間は1名で対応しているが早出、遅出などの変則勤務で入居者の支援に答えやすい仕組みをとっている。又、入居者の状態変化などにより必要に応じ職員で話し合いの下勤務時間調整を行うこともある。行事や企画あるいは急病や急用などでの職員不足時は3ユニットが協力体制により人数確保をに対応している。	1	入居者の心理面での影響に配慮しつつ、3ユニットで臨機応変な協力体制を取れるよう日頃より職員間の連携を大切にしている。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 理念の実践制	18 外部評価10	<b>職員の異動等による影響への配慮【外部評価】</b> 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から、スタッフとのコミュニケーションをしっかりととり、管理者を通し、状況を把握する。やむおえず、離職になった場合も、引継ぎ期間を十分とり、細かく申し送りをし、ダメージが最小限になるよう、配慮している。スタッフの移動は極力少なくし、馴染みの関係で聞かれるようにしている。	1	今後もスタッフの思いを吸い上げる努力をし、離職のないように職場環境を整えていく。
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	6	
	5 人材の育成と支援	19 外部評価11	<b>人権の尊重【外部評価・追加】</b> 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用募集にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。又、差別なく安心して働ける職場環境を整えている。職員については、着付け・陶芸・料理等、各々の得意な事を仕事に活かしてもらっている。資格取得の支援、個人の能力向上の為に研修参加も職員の希望に添って行っている。	1	採用時、着目するポイントは、表情(笑顔)言葉使い、認知症の方が、感じていることや思いを感じ取れる感性、認知症の方の残存機能を引き出す感性があるかないかに着目している。
		20 外部評価12	<b>人権教育・啓発活動【外部評価・追加】</b> 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者及び職員共に基本的人権が尊重されるべきである。人権擁護に関する資料を職員に配布し自己学習後に研修を実施し、あらゆる人権問題に目を向け理解していくよう取り組んでいる。意識を高め、日常の中で入居者に対し人権を尊ぶ関わりをするよう啓発している。	1	人権の尊重はひと時も軽率に取り扱われる事ではない。自身を大切にす気持ちを他人に対しても持つ事が出来るよう、人権に対する意識向上を図っていく。人権研修は定期的な研修とし継続していく。
		21 外部評価13	<b>職員を育てる取り組み【外部評価】</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、サービス向上委員会を中心に年間計画を立て実施している。グループホーム協議会研修やその他の法人研修についても、積極的に参加し、その都度、他の職員にも、内容報告をしている。参加は、パート・正職の差別はない。	1	年2回、介護技術個人チェック表を付け、管理者及びリーダーは、個別現場実習計画を立て、全ての項目、出来る事を目指している。又、年2回自己評価表記入にて、自己を振り返る機会とし、管理者と共に、一人一人助言育成に関わっている。
		22 外部評価14	<b>同業者との交流を通じた向上【外部評価】</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会・福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しており、他のグループホームとの交流しながら、現状の課題や悩みを話し合う機会がある。	1	福岡県グループホーム協議会では、県全体と北九州ブロックの研修がとて盛んで、質の向上に繋がっている。年1回の実践報告会での発表も職員の意識向上に繋がっている。
		23	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	週休2日制で、だいたい月に9日~10日の公休があり、ゆっくり身体を休め、リフレッシュする時間をとるようにしている。休憩場所は、利用者や離れ、スタッフルームにて休憩している。	1	利用者についての介護相談は、毎朝の申し送り、カンファレンス以外にも、いつでも話し合えるようにしており、一人でかかえこまないように配慮している。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は定期的実施している。体調不良時には、併設病院にて受診、治療代は法人が負担している。また、就業規則があり、職員の労働基準は守られている。	1	各委員会（サービス向上委員会・感染委員会・アクティビティ・園芸）があり、責任を持って、各々が積極的に取り組んでいる。又自分たちの取り組みをまとめ、早期認知症学会やグループホーム協議会実践報告会等、毎年発表し、意識の向上を図っている。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	10	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価4項目・外部評価1項目	4	
	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	25	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知力、理解力、判断力などを見極め症状や性格に応じた対応で本人の思いを引き出すよう努め、見学から体験入居、入居までの期間を焦らず家族と話し合いながら進めている。病院や施設からの入居の場合は、相談員を通じ現場の看護師、介護士から心身の状態を聞き把握に努めている。	1	その都度、本人、家族は基より、よく知る人からの情報収集を出来る限り行い、不安が少しでも軽減し、安心に変わるよう働きかけていく。
		26	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	この時期に十分な情報交換やコミュニケーションを行い、本人を支えてきた家族の思いや入居後の暮らし方についての考え、不安要因などを受け止め、入居受け入れが可能となれば、それらの思いを考慮した支援を行い家族の安心につなげるよう努めている。	1	左記の対応を細かい配慮で行い、信頼関係を強くしていく。
		27	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の親族を看ていた家族は大変な思いを経験している事が多い為、しっかり傾聴しながら本人との思いの違いについても把握し、方向性を見出し出している。話をする中で施設の違いについての説明を行ったり、他の社会資源の情報を提供することもある。	1	相談を受けた時、本人と家族にとって何がよい姿かを見極め、広い視野で情報提供が出来るよう知識を持って対応する。
		28 外部評価 15	<b>馴染みながらのサービス利用【外部評価】</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員からの家庭訪問や施設訪問、本人、家族からの見学、希望による体験入居などを通し、本人、家族、又職員にとっても安心して利用に繋がるよう工夫している。入居後は環境の変化に少しずつ馴染んでいけるよう、同じ趣味の入居者との活動や役割の提供、気が合いそうな入居者と隣席にて、会話を仲介するなど馴染みの関係作りを工夫している。	1	その方の性格や認知症の程度など個性を踏まえた上、家族の協力も得ながら経過を追っていく。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)				自己評価6項目・外部評価1項目	6	
係り2 継続 これ な な 支 援 の 関 係 の 関 心	29 外部 評価 16	<b>本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	床漬け、梅漬け等の漬物作り、煮物や和え物などの家庭料理など職員が教わる事は沢山ある。得意な事が発揮出来る環境や機会を作り、手順やコツを教えてもらっている。生け花や茶道の師範をされていた方もあり学びは多い。一緒に過ごす時間の中で、自然に笑いあったり、励ましあったりと関係が深まっている。	1	共に支えあう関係の中で、互いの貴重な時間を大切にしていきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を発足し自主的な活動をしている。職員をサポートしたいとの家族からの声で、行事の企画や実行をそれぞれの出来ること、時間で参加して下さり職員と打ち解け意見や要望を遠慮なく発信しコミュニケーションをとりやすい環境となっている。入居者の支援と言う共通の関係が一つになってきたように感じられ心強い。	1	家族が色々な場面で職員と一緒に、本人を心身両面から支援する機会が増えている為感謝している。今後も両輪となって本人を支えていくような関係を継続していきたい。家族会の企画「さんちのおうちごはん作り」では、母親が昔作ってくれた、その家庭ならではの献立を家族が再現している。本人と、その方の家族はもちろん他の家族と一緒に回想しながらの楽しいごはん作りと食事の賑わいは感動する。
		31	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	互いの暮らしの様子や心身の状態を知り、家族としての絆を繋いでいけるよう定期受診の付き添いや行事の誘いなどホームへの来居の機会を作っている。来居時、家族が食事作りに参加しお母さんや姑さんと一緒に台所に立つ姿は微笑ましい。家族会の活動にも協力支援している。	1	家族と共に過ごしている時の本人の様子は、家族とは何にも変えがたいものだと思う事がよくある。家族が本人を支えることの意義を伝え、良好な関係を続けて頂き共に安心してホームでの暮らしが継続できるよう支援していきたい。
		32	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中学時代の同窓会への出席、師範をしていた公民館講座への出席、生徒さんとの交流、自宅の庭の手入れ、在宅の頃の近所の方との挨拶や会話など馴染みの関係の継続を支援している。在宅の頃の近所の馴染みの肉屋さんがホームに週2度配達に来てくれていて会話を互いに楽しみにしている。	1	馴染みの方との継続した付き合いは、本人にとって、とても安心でき楽しみでもある社会とのつながりである。今後も継続していきたい。
		33	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事準備・片付け・洗濯たたみ・掃除等出来ることを協力し支えあって暮らす場面をたくさん作り会話の橋渡しをし、馴染みが深まるよう支援している。認知レベルの差や行動障害などにより関係の悪化が見られることもあるが、気の合う人との外出などで優しい気遣いのある一面を見せたりされる。	1	馴染みになって、自分本位になり我がままになる方もいるが、ふと優しい一面が見られる事もある。嫌な思いをした記憶が残り、関係が修復出来ない方もいる。いろいろあって当然だが、その人の良い所を見せる場を作り認め合っていく関係作りを模索していく。
		34	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	過去に、入院による退去と入院中亡くなって退去となった方がいる。いずれも入院中面会に度々行き本人・家族への励ましや相談援助を行っていた。今後もいろいろな事情での退去があると考え、その方に応じた住み替え支援など家族の相談者となるよう努めていく。6月に亡くなった方の家族と家族会の皆さんが本人を偲び「おうちごはん作り」に思い出の一品を添えられた。又畑の手入れを手伝って下さり交流が続いている。	1	必要な事があれば誠意を持って援助していく。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	17	
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価 3項目・外部評価 1項目	3	
	1	35 外部評価 17	<b>思いや意向の把握【外部評価】</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドシート 個別特性シートを家族からの情報を基に作成し、本人の生き方や思いを暮らしに反映出来るようにしている。また環境に慣れ仲間との生活をしていく中で芽生えてくる思いもある。色々な場面での言葉や行動などからその方を知るよう努めている。	1	各職員が色々な関わりの中から得た言葉や行動、表情が本人のどのような思いなのかを考え日常に活かせる様努め、又、それが職員全員の共通の理解となりケアに活かされるよう積み重ねていく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートや個別特性シートで過去の生活の様子や好むこと等把握し、その方が馴染みのある大切にしていることを守りながら、生活できるように支援している。在宅からの公民館趣味講座の継続や自宅の庭の手入れ、仏壇の世話など。	1	入居後数年経過しても会話の中から新しい情報が得られ思いがけなかったり、珍しい来客から得ることもあり、寄り添いながらも新鮮な意識を無くさず接していく事が大切である。
		37	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の身体機能の状態・精神状態・行動障害を考慮し、本人の意向を大切にしつつ、その日の勤務者が、近日の様子も加味しながら話し合い、一日の生活の流れを作っている。疾患や、服薬内容によっては、日内の動きの違いもある為考慮している。	1	今後は更に高齢化が進み疾患管理や疲労への配慮の必要性も高くなると考える。そのような中でその方に応じた生活をどのように組み立てていくかを常に検討していく。
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	3		
	2 介護計画の作成と暮らし続けるためのケアマネジメント	38 外部評価18	<b>チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思い、家族の意向をしっかりとアセスメントし、その人らしい介護計画を作成している。月1回の職員会議時、入居者全員の介護計画の内容について担当職員が中心となり職員全員でのカンファレンスを行っている。その他見直しが必要時には随時カンファレンスを行い、共通認識した上で支援に活かしている。作成した介護計画書は家族よりサインを頂き、職員が常に確認出来るよう保管している。	1	本人の思いと家族の意向を大切に、本人を支える関係者との話し合いをこまめに行い、時々に応じた必要な支援を継続しその人らしい暮らしを支えていくように努める。今後は医療面の対応も更に必要と考えられる為、医師・看護師・OTなどの専門の立場からの意見も反映させていく。
		39 外部評価19	<b>現状に即した介護計画の見直し【外部評価】</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(月1回)あるいは状態変化には随時のモニタリングを実施し、3ヶ月毎に介護計画の追加や継続、終了を見直し、介護計画に反映させ現状に即した計画になっている。	1	日常的に変化への気付きを意識し、時々に応じた計画の見直しを早期に行い支援に結び付けていくよう努めていく。
		40	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な支援内容を継続的に行い、経過を見ていく為、「医療・生活介護記録」を記載しモニタリングを行っている。日中の活動の支援の様子は、「生活活動記録」に記載し好まれる活動の提供に繋げている。申し送りの時間を設けて次の勤務者に伝達し確実な支援の継続を図っている。記録時に内容を考察し計画を導き出すことで早期の介護計画に繋がるよう進めている。	1	介護計画に添った記録、又計画を見直す上で十分活用出来る記録とする為、意識した個別記録とし、全職員が考える力をつけていくよう取り組んでいく。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	1		
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	<b>事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により週1回の訪問看護師が来居し職員が同席にて近況報告し健康チェックを行いアドバイスにより日常の医療面、生活面の支援をしており、日頃より気軽に相談できるような関係を築いている。認知症高齢者の特色と、家族の背景や状況を踏まえた上で適切な看護や処置が提供できるように対応している。入院の場合は医療機関、訪問看護師、家族と協議して早期の退院に向け連携を図っている。	1	重度化や終末期のあり方が本人家族にとって後悔のない穏やかなものとなるよう、事前あるいはその時々で家族・医師を含めた率直な話し合いが出来るよう連携体制をしっかりと確立させていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	10	
		42	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前の生活がどのように社会と繋がっていたかを明確にし出来る限りの継続を支援している。公民館、図書館、美術館、理美容の出張、公共緑地、クリーニング、クラブ活動のボランティア、在宅時からの馴染みの市場などの利用多数。地域の方参加の運営推進会議により協力要請の場も作り連携をとっている。	1	更に入居者の意向、要望に応じて多様な支援に努めていく。また、地域参加の消防訓練後の消防からの指導やアドバイスを参考に今後の防災に生かしていく。
	4	43	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の必要に応じて、理美容サービスの利用や、福祉用具専門員に生活支援用具の相談に乗ってもらっている。またボランティアによるアニマルセラピーや、行事の協力要請をしている。徘徊高齢者対策として、早期発見、早期保護を目的としたネットワークシステム(戸畑区)に登録し事前対策をしている方もある。	1	本人が求める他のサービスの把握に努め、活用の広がりを進めていく。
		44	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂き、森の家の取り組みを紹介し助言を受けたり、センターで経験した事例を紹介して頂き、問題点に対する意見を伺う機会などを持っている。法人で立ち上げたNPO活動の中で、認知症の人を地域の中で支えていく為の協働についての講演をして頂き、地域の方、家族、職員など多数が参加し理解を深めることが出来た。	1	認知症の人を支える地域のネットワークの中のグループホームが、どのような活動が求められ、それを具体化していく為に何をしていくのかを模索していく。
		45	<b>かかりつけ医の受診支援【外部評価】</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を最優先していただける旨、入居時に説明し安心して納得出来る医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医変更の希望があった場合は、病院間の医療情報の迅速な伝達を支援すると共に、今後の受診方法と、家族による受診が困難で職員が付き添った場合の、医師から得た医療情報の伝達を速やかに行い相互理解のもとで支援していく事を説明し合意している。	1	かかりつけ医と連携しながら、必要に応じ他科受診を行う事もある。今後も症状に応じ適した医療提供が迅速に行えるよう支援していく。
		46	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接した協力病院の西野病院に物忘れ外来があり、知見の深い専門医による適切な薬の処方や生活面での関わり方など助言をもらえるようになっている。必要時にはいつでも相談できる医師がいる。	1	生活の中から認知症状の変化、行動障害などの周辺症状をしっかりと見極め専門医に情報を提供出来るよう努めていく。
		47	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間医療連携体制により訪問看護師との契約をし、週1回の健康チェックの訪問がある。定期の訪問以外にも夜間を含む常時、医療や栄養などの相談や、急変時の訪問にも応じてもらっている。気軽に相談が出来る体制が出来ており、情報交換の為職員が訪問看護ステーションに出向く事もある。必要時には、傷処置や点滴など医療行為を医師との連携により行なってもらっている。	1	今後も情報交換をしっかりと行いながら医療支援を行い、緊急時にも迅速な対応が行なえるよう連携を築き上げていく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院から退院に至るまで家族、訪問看護師と職員が、主治医との話し合いを蜜に行い、早期退院の流れを作っている。入院時に認知症の著しい低下がみられた方が、早期退院によりホームでの生活を早い時期に再開した事で、機能を取り戻し活動の賦活がみられた例が数件ある。	1	ホームでの生活がいかに本人の生きる力を高めるかを認識し、今後も経験を活かしていきたい。
		49 外部評価 22	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての基本指針を説明し家族からの意向確認書をもっている。その上で本人、家族の意向の変化、取り巻く環境の変化など状況に応じた時々、家族・かかりつけ医・看護師・ホーム職員がホームが対応できる最大の支援を踏まえて話し合いをし、本人がその人らしく生きる力を引き出せるよう関わっていく事を職員共通の理解としている。	1	家族にとっては入居者本人の心身の状態はもちろん、御自身の家庭の事情や心身の状態によっても意向が揺れ動く事もあると思われる。その都度方針の確認を行いながら関係者皆で最善の方向性を見出す努力をしていく。
		50	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	管理者会議や全体会議の中でも、ホームで対応出来る事と、出来ない事を話し合う機会を持ちながら、今後の変化に備え検討を重ねている。個々の状況に合わせて対応を変えていく事が望まれるので、柔軟に対応出来るよう検討を行っている。研修に際しスタッフにアンケートをとり不安や思いを把握している。	1	医療行為の限界や職員の介護力、家族の協力体制、他入居者とのバランスなどあらゆる事が想定される中で、日々の健康を維持していく事の大切さを感じ、介護、医療の両面から知識を積み上げていくよう努めている。重度化に備え適宜マニュアルを見直すなど検討を重ねていく事が望まれる。スタッフ間で考えを統一する努力を今後も行っていく。
		51	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今の生活が困難になり住み替えが必要となる場合は、本人の心身の変化も著しいと考えられる。その上に環境の変化を余儀なくされる為、介護計画に沿った援助の継続と心のケアを大切にしなければならない。住み替え先への細やかな情報提供を行い本人の暮らしの継続を援助していく。現時点での住み替え支援は無い。	1	退去時の住み替えは無いが、入居時と同様、援助方法が継続できるよう、次の支援者へ、情報を伝達していき住み替えのダメージを小さくするよう働きかけていく。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	38	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	30	
		(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	3		
		52 外部評価 23	<b>プライバシーの確保の徹底【外部評価】</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権、接遇、個人情報についての研修は特に日常の支援の中で実践に活かせる内容とする為、自己チェック表の記入やグループに別れてのディスカッション、事例検討など工夫を凝らし知識の習得に力を入れている。年2回自己評価を行い、自らを振り返る機会を設けている。(新人職員は年4回)	1	実務で配慮が出来る職員の育成を継続していく。
53	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	漠然とではなく具体的に内容を示し選択しやすい場面を作り、意見を聞き自己決定へつなげている。自己決定できない方は、どんな時に笑顔や楽しい表情が見られるかを日頃からアセスメントし、心地よい場面作りを心がけている。	1	認知症状や疾患の変化に伴い、好みや意思決定能力の変化が考えられる。その時々で見極めながら力に合わせて支援をしていく。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	<b>日々のその人らしい暮らし【外部評価】</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時の本人や家族からの情報によるバックグラウンドシート、特性個別シートの活用によりその人を知り、家事活動やアクティビティ活動がその人らしい暮らしに繋がるものになるよう支援している。活動時には本人の意向に沿ったものになっているか、その都度問いかけ、又表情から見極めている。	1	その方が一日をどう過ごしたいか、今行っている事が十分満足に繋がっているのかを見極め、明日に生かしていけるよう、職員が寄り添った介護を実践していく。
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	6	
		55	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が落ち着く好みに応じた身だしなみを基本に、化粧や整髪、髭剃りなどに関心を持ち続けるよう支援している。理美容は訪問があり、髪型など本人が伝えられない場合は家族と話をし希望を伝えている。在宅の頃から馴染みの理美容店へ家族が同行することもある。	1	その方が安心して気分の良い状態で過ごせるよう若い時からの習慣に習い支援していく。
		56 外部評価 25	<b>食事を楽しむことのできる支援【外部評価】</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食入居者と職員と一緒に作った食事を共に食し団樂のひと時を持っている。入居者に料理本から献立を決めてもらい買物をして料理する時もある。買物に行くとき安かったからとメニューが変わる事もあり面白い。又季節の野菜をキッチンガーデンで一緒に育て収穫し献立に取り入れている。煮物や酢の物、白和えなど入居者の得意な料理が食卓に上っている。	1	食事は食べる事の楽しみはもちろんだが、懐かしい行事食や好物であれば会話も弾む。出来る事を持ち寄っての料理作りを行い、食の楽しみを感じてもらいたくさんの試みを続けていく。
		57	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物に行き好きなおやつを購入し、午後のティータイムや夕食後のくつろぎの時間にそれぞれ楽しんでいる。疾患によりカロリー控える方も居るため適量の配慮をする必要はある。現在、喫煙希望者はいない。	1	嗜好の楽しみを満足させる事は気持ち豊かになるものである。適量を考えつつ毎日取り入れていく。
		58	<b>気持ちよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時や退院時などに必要があれば排泄チェック表を付け排泄パターンを把握の上、その方に応じた適時声掛けをし、必要に応じ誘導を行っている。介護計画にあげて支援している。	1	継続的な支援を行い安心と清潔を守っていく。
		59 外部評価 26	<b>入浴を楽しむことができる支援【外部評価】</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食前に入浴される方、眠る前が良い方など希望を聞いている。毎日入浴される方もあるが、きついで一日置きでよいとの方もある。体調をみながら入浴するが、出来ない日は清拭や足浴を行うようにしている。入浴拒否がある場合は、時間をおいたり、職員が変わって誘うなどその時々、その人にあった工夫で対応している。	1	本人の意向に沿った支援を継続していく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	<b>安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は外気浴や庭の散歩、体操など体調に合わせて体を動かしたり、趣味の活動や家事活動により生活リズムを整えている。眠れない方へは寝る前の入浴や足浴等工夫している。疾患など考慮しながら、午後の安静時間の確保、散歩後の休息等、個別の支援をしている。夜間の睡眠状態の観察記録をしている。	1	年齢、疾患、習慣、その日の体調など考慮しながら、休息や睡眠が出来るよう支援している。
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	6	
		61 外部評価 27	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴や好みに添ったアクティビティ活動や家事活動を提供し支援している。台所仕事では料理、盛り付け、配膳、片付け、食器乾燥機入れなど得意な事が自然にその人に応じた役割となっている。好みや個性を大切にしながら喜びのある生活の支援をしている。	1	楽しみのある暮らしは意欲を高め生き生きとした生活をしていく上でなくてはならないものだと考える。したいことを伝えられない方には本人の性格や職歴、生活歴を生かした楽しみを探していく。やってみようとする姿を見逃さず支援につなげていくよう努めていく。
		62	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃より能力に応じたお金を財布に手持ちされている方があり、その他の方も外出時には本人の財布から支払う、あるいは本人に手渡してから支払う等、その方に合った個別の方法で支援している。	1	日常的に買い物などでお金の支払いをするなど、継続的に支援していく。
		63 外部評価 28	<b>日常的な外出支援【外部評価】</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭の散歩、病院カフェ・売店の利用、近隣スーパー・市場の買い物、デパート、外食、半日ドライブ(海・山)、図書館・美術館・博物館の見学等外出の機会をたくさん持っている。	1	外出は気分転換となるため、毎日取り入れている。少し元気がない方も、外出の誘いには積極的な返事が返ってくる。今後も本人の状態を把握しながら機会をたくさん作っていく。
		64	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	川棚温泉日帰り旅行に家族、職員、入居者全員で行く事が出来、楽しく有意義な一日を過ごした。組み合わせの違う親子が団楽している様子など見られ、その後の家族の来居時の親しみが深くなった。お茶同好会やパーキンソン病友の会の出席、他入居者の入院見舞い、友人の初盆お参り、墓参りなど個別援助を行い有意義な時間を持って頂いている。	1	時候の良い時期に日帰り旅行を計画予定。
		65	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、近況報告など入居者にあった関わりで手紙を書いている。又頂き物のお礼や声の便りを電話で自由にかけて頂いている。幼なじみの友人との手紙のやり取りが続いている入居者もいて楽しみになっている。	1	継続した支援を行っていく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問時遠慮なく過ごせるスペースでご自由な飲茶や話が出来るよう雰囲気作りをしている。ご家族の要望あれば、居室や和室にて宿泊いただけるよう、寝具類の用意をしている。又食事作りを一緒にしたり食材を買いに行くなど生活の中に入って入居者や職員との接点を楽しんで帰られる家族もある。	1	左記のような関わりを積極性を持って発信し支援の広がりを築いていく。
		(4)	安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)	自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	8	
		67	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止マニュアルに添った拘束の無いケアを行っている。リスクマネジメント研修を行い職員へ具体的な説明資料を配布し理解実践に生かしている。現在、3階の窓に向かって危険な行為がある為生命保護の観点から、やむおえず家族への説明と同意を得て居室の窓の開閉を狭くする対策をとっている事例があるが、経過を随時報告し継続の必要性を検討している。施設全体研修の他、ホームの合同会議の中でも勉強会を随時行っている。	1	身体拘束に対する認識とその弊害を繰り返し反復し、正しい理解の下、安全安心に繋がるケアを実践していく。定期的な研修を実施していく。
		68	<b>鍵をかけないケアの実践【外部評価】</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間のみ施錠。現在は帰宅願望が強い入居者があり(8月入居)、併設施設の職員へ見かけたら知らせてくれるよう協力依頼をしている。玄関と非常階段はチャイムで出入りを知らせるようになっていたが、頼り過ぎる事無く常に職員で声を掛け合い所在の確認を行っている。又好んで集中できる活動や、役割、他者との団欒など工夫し訴えの軽減を図っている。	1	入居者一人一人の行動パターンを知った上で見守りの強化など安全に留意していく。
		69	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホッとするプライベートな時間を居室で過ごす方への配慮した見守りや、常時の見守りが必要な方など、認知や身体面での違いに応じた安全確保と、心の安定を図りながら、居場所や行動の把握をしている。常に職員同士で声を掛け合い所在確認を行っている。	1	その日その時の身体や精神状態の違いを考慮した安全管理によって安心した暮らしを支えていきたい。
		70	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日々の暮らしの中で使用する刃物類や、手芸用品、大工道具などは置き場所を決めており、使用後は確実に元に戻すようにしている。使用時は、過度に危険を意識せず一人ひとりの出来ることに応じた使用をしている。薬品、消毒剤、漂白剤、液体洗剤、洗浄剤は特に管理の強化をし保管倉庫は施錠している。包丁は、流し台の扉に鍵をかけ保管している。	1	入居者の認知の低下や周辺症状などの変化を捉へ、その時々で早めの対応をして、危険の回避に努めていく。
71	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し、事故が起きた際の対応の情報を共有している。自己を予測し動く姿勢をいつも取れるよう研修を行っている。事故発生時、事故報告書作成し、発生状況、考察、対策について検討し全員周知の上今後に活かしていくよう努めている。ホームの合同会議で、ヒヤリハット報告を基に問題点を探り、予測可能な自己の徹底防止を話し合った。	1	職員間で気付きを放置せず、その都度話し合いの場を設け、事故防止に努めていく。介護経験の長い職員や看護師からの意見を他の職員が謙虚に受け止め知識を深める努力をし、事故防止に繋げていく。定期的な実践に活かせる研修を行っている。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、職員全員に熟知し徹底するよう指導している。緊急時慌てず対応できるようスタッフ室の目に付きやすい場所に手順書を掲示している。消防隊による救急救命に関する講義と実技訓練を定期的に行なっている。勤務状況があるが、出来る限りの全員参加を促している。	1	緊急時、冷静にベストを尽くせるよう、イメージして知識が不足している所は、専門職に学び克服しておくなど職員一人ひとりが意識を持ち取り組んでいく姿勢を引き出していく。
		73 外部評価 30	<b>災害対策【外部評価】</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を中心に防災マニュアルが作成され常時目に付く所に避難経路、役割と行動、緊急連絡網を掲示している。定期的な非難訓練も行なわれ区の消防隊や、協力病院、地域の人も参加している。地域の人の誘導、避難場所での見守りにより混乱無く終了し連携の必要性を職員全員が意識する事が出来た。前回評価で課題となった災害対策については、消防署を訪問しアドバイスに基づき非常用食料の備蓄、避難先、職員の動きなどを確認した。	1	訓練したことが実際の災害時に活かせるかが重要である。定期の訓練だけでなく、日頃から入居者の現状に則した対策を考え合わせ、疑問点など出た場合関連機関に相談し指導を受け、備えておくことが必要と考える。
		74	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクや状態変化に伴ったリスクの変化や増大に対し、対応策を家族と話し合い本人の不自由感を最小限に考慮しつつ安全の確保に努めている。現状では転倒に繋がるリスクを持った方が多い。話し合いの上、相互理解した内容について同意書を交わすこともある。	1	状態の変化には早い対応で臨み、納得のいく安全管理を継続していく。
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	7	
		75	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックと共に、言葉による訴えに頼らず、表情や動作の中から異変の早い発見に繋げ適した対応を行なえるよう努めている。高血圧、糖尿病、心臓病など持病に対する病変の早期発見にも努め、その都度変化を記録に残し情報を共有している。訪問看護師による健康相談も行なわれている。	1	早期の気付きと対応がその後の経過に大きく影響する事を考えると、ちょっとした変化を見逃さないことがとても重要である。定期の医療研修の継続した参加や、書籍により知識を高める努力をしていく。
		76	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし入居者の薬の内容について職員全員が周知し正しい用法を守っている。分包し、服薬までの3度のチェック体制により、確実な服薬確認を実行し副作用など気になる症状があれば早期に主治医に相談している。	1	服薬による症状の変化や、副作用について観察し、適した治療に繋がるよう医師や看護師に確実に伝えていく。処方箋から知識を得るが、理解出来ないところをそのままにせず、医師や看護師から学び納得したうえで対応に臨むよう努めていく。
77	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	本人の疾患からの援助と排便状態を知り食事、水分摂取、運動への配慮を基本とし、必要に応じた服薬コントロールを行ない、現在は順調に調整が行なわれている。	1	便秘による体調不良や気分不良、更に不穏悪化に繋がるなどの諸症状に留意していく。服薬だけに頼ることなく食事や運動での便秘の緩和に努めていく。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	協力病院歯科医師により日頃から指導を受け、日常的に朝夕、磨き残しや義歯洗浄のチェックを行い、個々人にあった声掛けや介助を行っている。又外出後のうがいを励行している。異常があれば早期の歯科受診と共に、予防の為に歯石取りを毎月行い口腔の清潔維持に努めている。	1	本人のその時に応じた必要なケアを把握し援助を継続していく。
		79	<b>栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、出来るだけ多種の食材を使用し、摂取していただくよう心がけている。隣接するケアハウスの栄養士からの指導も受け、カロリーやバランスにも配慮している。又、1ヶ月単位で献立を評価し職員会議で話し合いを行い改善点をチェックしている。前回評価の課題であった水分摂取量については全員の水分チェック表を付け観察し、水分不足にならないよう配慮している。	1	今後も、安定した心身の維持と、食の楽しみ両面のバランスが保たれ満足されるよう、話し合いをしながら工夫し対応していく。
		80	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止マニュアルがあり発生時にはマニュアルに沿った対応を医師、看護師の指導の下行うようになっている。感染予防委員会の活動により、職員勉強会（インフルエンザ、食中毒、水虫等）も行い、予防についても実践で活かしている。	1	今後も発生させない為の予防の取り組みと、早期発見に努め、発生時には早期治療と感染の広がりを最小限にとどめるようマニュアルに添った正しい対応をしていく。
		81	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者がまな板・布巾・包丁・ゴミ受け等の殺菌漂白は毎日、冷蔵庫は一日置きに残り物の利用や処分をしている。毎週土曜日に食材の整理と冷蔵庫の消毒をおこなっている。食器類は毎食事後、入居者と職員で洗い、更に食器洗い乾燥機で熱湯処理乾燥をしている。魚などの生物は出来るだけ当日の買物で購入し調理するよう心がけている。	1	職員一人ひとりが清潔や衛生についての必要性を理解し、意識を持って行動するようにしているが、実行のズレが無いよう、気付いた事はその場で注意しあって安全を維持していくことも話し合っている。
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)	自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	8		
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)	自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	5		
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口に森の家の雰囲気にあった親しみのある大きな看板があり、ドアには家族手作りの暖簾をかけている。又住居としての意識につながるよう入居者とスタッフが協働で作成した木製の表札を設置している。玄関回りには花や緑を絶やさないようにしている。又テーブルやベンチを置いて、くつろぎのスペースを作っている。	1	入居者や家族、地域の方の意見も聞きながら、親しみのあるホーム作りを行っていききたい。
		83	<b>居心地のよい共用空間づくり【外部評価】</b> 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はゆったりとしたスペースで、出来る事を持ち寄り賑やかに食事準備がされている。入居者が家庭で使用していた食器棚を置き馴染みの食器も多い。今年つけた梅干や糠付けの床があり根菜類や果物は籠に入れておいている。思い出のアルバムや手芸道具等も居間に置いている。散歩のとき季節の花を摘み飾っている。ベランダのプランターに花や野菜を植えてミニ家庭菜園を楽しんでいる。	1	環境の設定を工夫しているが、入居者一人ひとりの快や不快の感覚に違いがある為、配慮が求められる。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた和室や、居間、廊下にはひと休みしたり、気の合う方との一時を自由に過ごせるよう椅子とテーブルを設置している。テーブルには花を飾り、ちょっとした小物使いで落ち着けるよう工夫している。料理の本・旅行雑誌・作りかけの刺し子道具など。	1	家具の移動など環境の変化による、不穏などのダメージに配慮する必要があるが、一方では、入居者間のトラブルなどの問題や、身体機能の変化による必要性から移動等を行うこともあり、その時々で対応し居場所作りを行なっていく。	
		85 外部評価 33	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、ご本人が使い慣れた家具や思い出の品、アルバムなどの持ち込みをお願いし、その方らしい居室作りにより安心して落ち着ける生活の場となっている。その方の生活暦を感じさせる物も多い。趣味活動で作った作品も飾っている。	1	周りを気にすることなく過ごせる居室は本人にとっても、家族にとっても大切な空間である。その人らしさが出た居心地の良い居室作りを本人、家族と話し合って作っていきたい。	
		86	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の全居室、共用部の換気を始め日中も適宜に換気を行い外気を取り入れている。空調の調整は、外気温とのバランスも考えながら温度調節を行っている。臭いの強い生ゴミは衛生面からも早めの処理が必要な為、必ずその日の内に別棟のゴミ置き場に移動し処理している。	1	環境面、健康面からも換気や空調への配慮を継続して行っていく。	
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	3	
		87	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室の手すり、浴槽回りの滑り止めの設置、台所には入居者の身長にあわせて高さ調整を行った流し台を2台設置し、使用の際の入居者間の混乱を防ぐなど工夫をしており、広さも車椅子対応が可能となっている。又心身機能の変化する中でベッドや歩行器など時々に応じた自助具で対応をしている。	1	今後も認知力や身体機能の変化に応じ検討し、安全の確保に努めていきたい。	
		88	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	少しの環境の変化でも思いがけない混乱や不安のきっかけになる事がある為観察し考慮している。又自立を妨げないようその方の程度に応じた環境と活動の支援をしている。居室入り口には思い出ボックスや木の表札を設置し、その方の思い出の品物を入れ、ご自分の居室確認が出来る様工夫している。	1	職員が自分の考えのみに頼らず、他職員との意見交換をし多角的な視点から、本人のわかる力を導き出して、工夫し力を発揮できる生活を構築していきたい。	
		89	<b>建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物は緑に囲まれ散歩や散策が日課となっている。又ホーム専用の畑の水やり、草取り、収穫と園芸活動を行なっている。ベランダや物干し場には鉢植えを置き、毎朝水やりし、成長を楽しんでいる。園芸用のじょろやスコップがいつでも使用できるよう用意してある。	1	広い庭のある環境の中で、四季折々の変化を楽しみ五感に働きかけていきたい。花や野菜などを育てていく過程で成長や収穫の喜びを味わい、又、押し花、フラワーアレンジメントなど関連した活動を通して生きる喜びにつなげていきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	
サービスの成果に関する項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	1			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。